

# SBIR フェーズ3基金事業の概要

国立研究開発法人 土木研究所  
つくば中央研究所技術推進本部

# SBIR フェーズ3基金事業の位置づけ

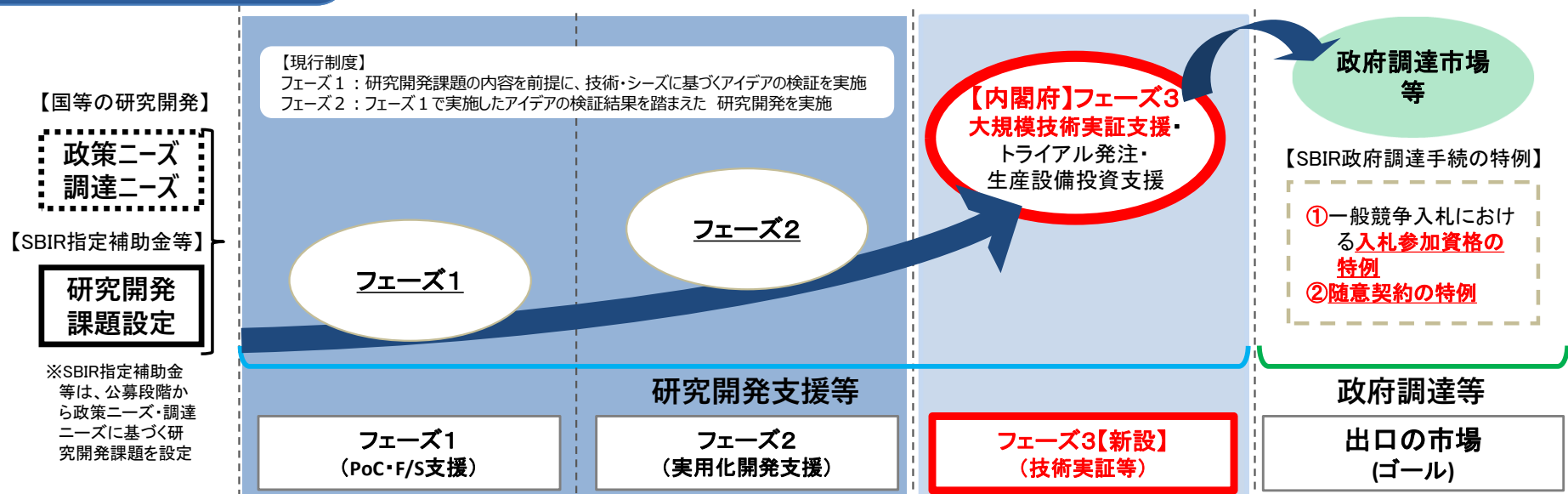
## 施策の目的

かつては、公共調達を見据えた中小企業の技術開発支援であったが、今やSBIR制度（Small/Startup Business Innovation Research）はスタートアップに対する研究開発支援に移行。同制度に基づく「指定補助金等」の対象・規模を抜本的に拡充。

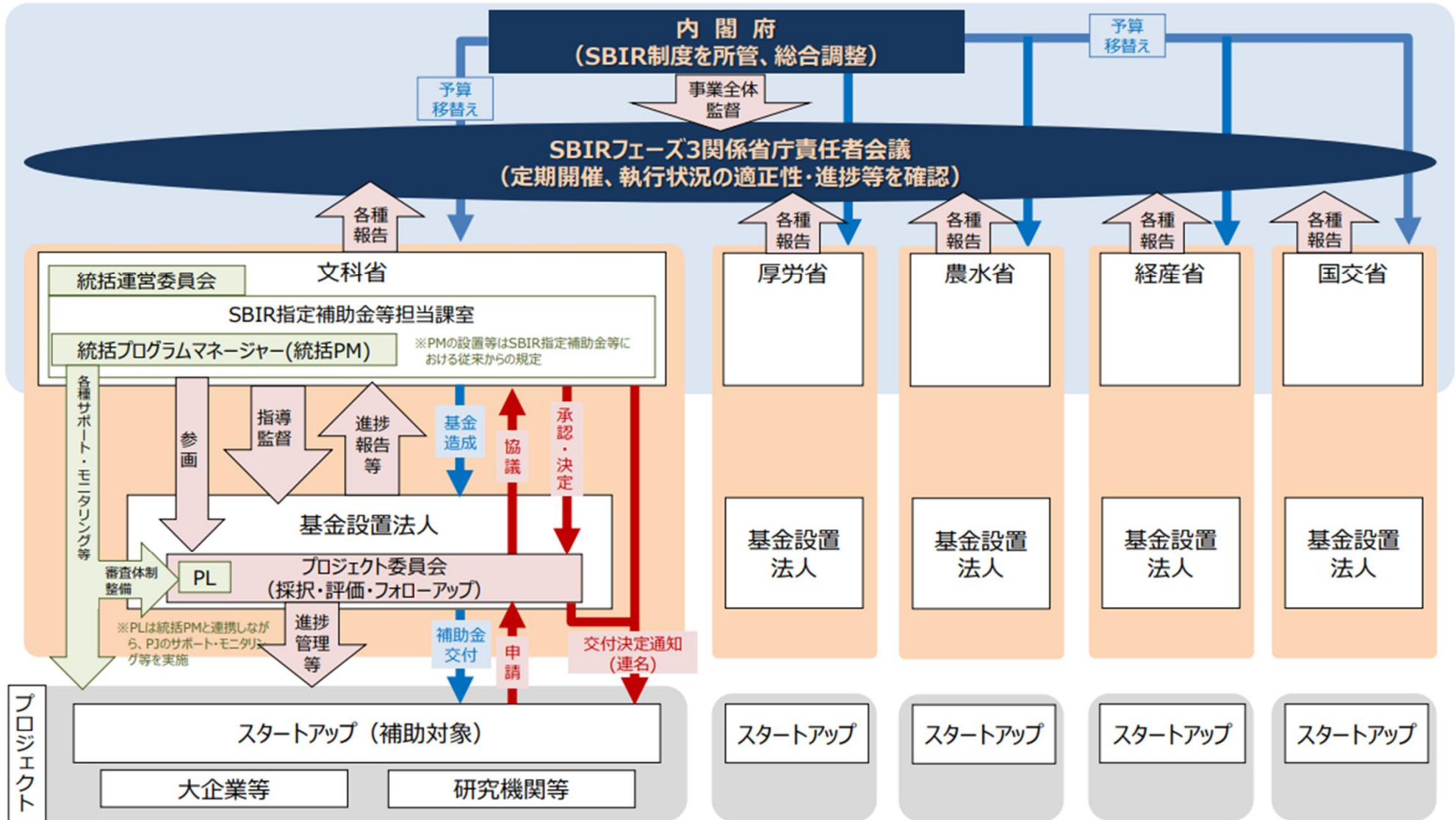
## 施策の概要

ビジネスアイデアのFS調査段階（「フェーズ1」）、実用化に向けた研究開発段階（「フェーズ2」）の支援の拡充に加え、新たに先端技術分野における大規模技術開発・実証段階（「フェーズ3」）も支援対象に追加する。

## 施策の具体的内容



# SBIRフェーズ3 基金事業の執行体制及び各種会議体



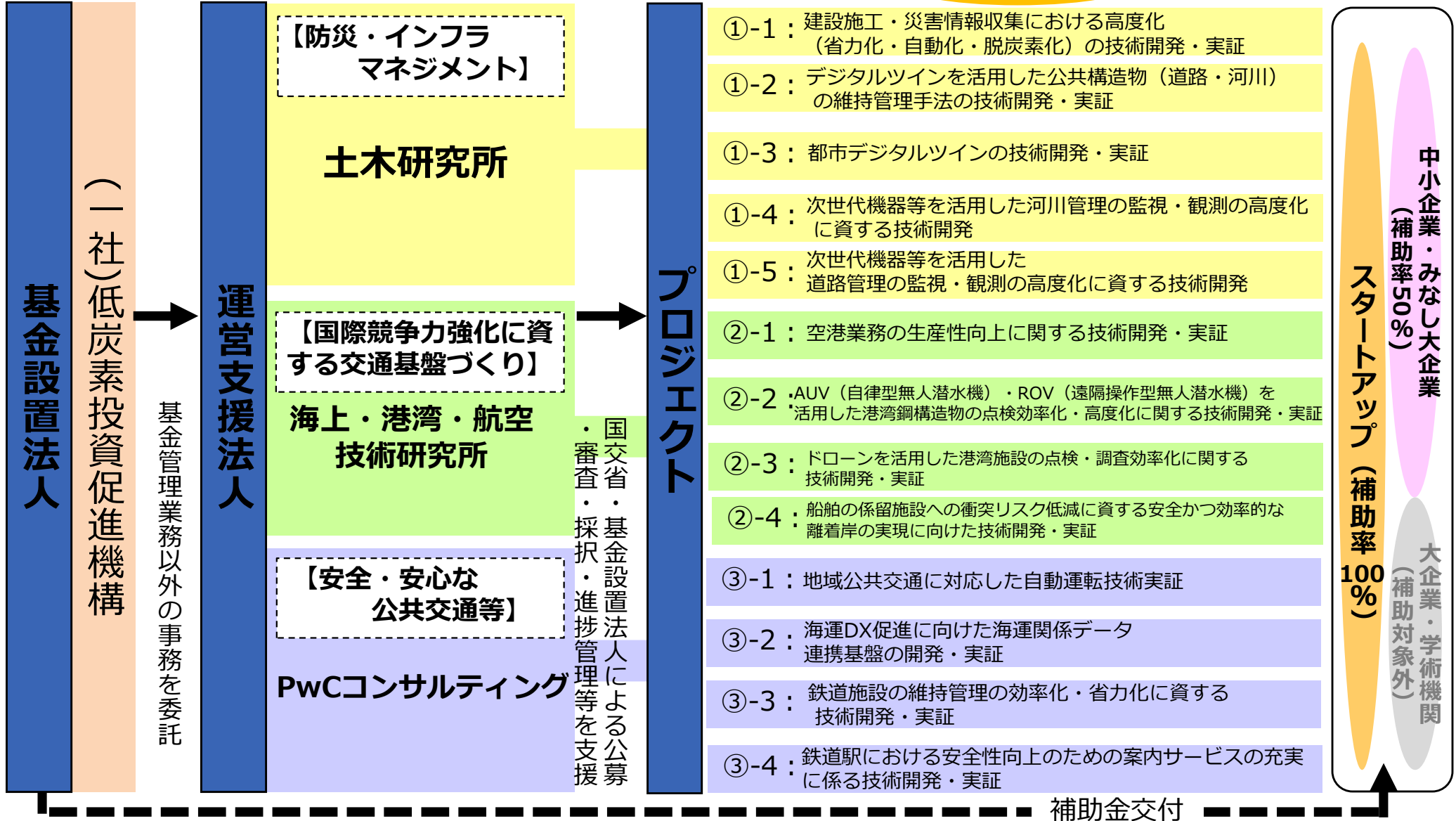
# 国交省S B I Rフェーズ3 基金事業の進め方

昨年8月から公募を開始、順次審査、採択手続きを実施  
 本年3月末までに下記の13公募テーマで49プロジェクト採択  
 事業期間は最長で令和10年3月まで

内閣府より予算移替え  
 →R5.4.18基金造成

R5.7.31採択

## 公募テーマ



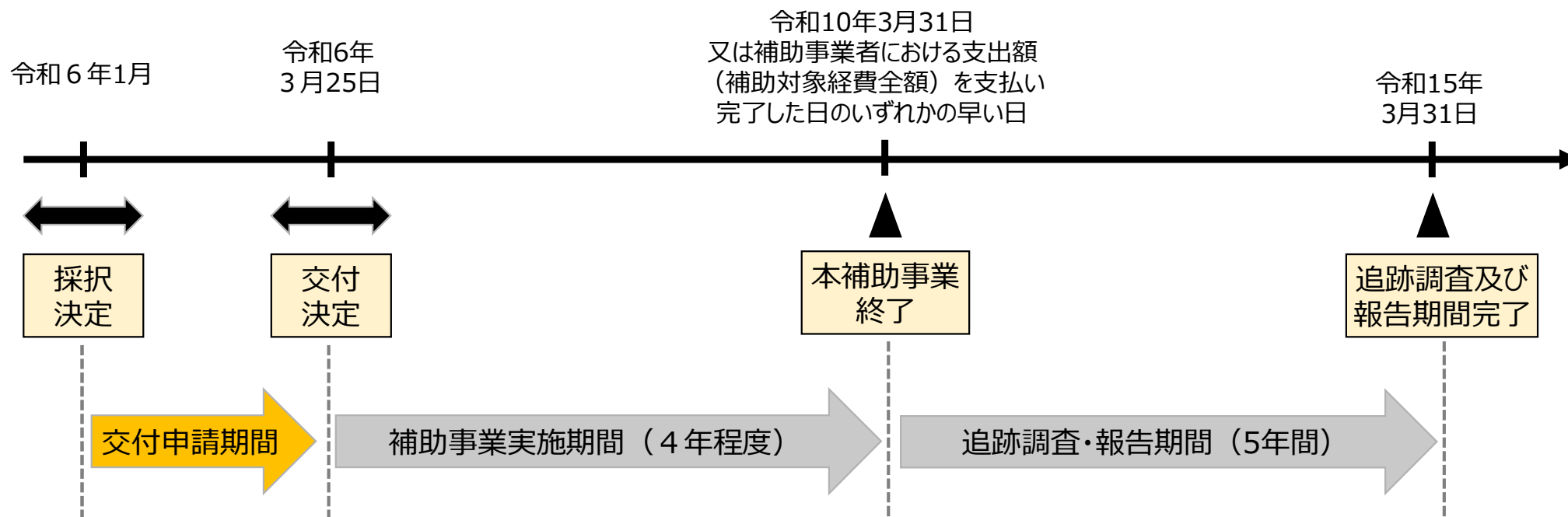
# 技術実証課題（防災・インフラマネジメント分野公募テーマ）

- 本補助対象事業が対象とする技術実証課題（公募テーマ）は、以下の5つです。
- 公募テーマの下にサブテーマ（公募テーマ内容）が14つあります。

公募テーマ			
テーマ①	建設施工・災害情報収集における高度化（省力化・自動化・脱炭素化）の技術開発・実証	①-1	建設機械施工の高度化（省力化、自動化・遠隔化、脱炭素化）に関する技術の開発
		①-2	建設現場における施工管理の省力化・高度化技術の開発
		①-3	災害調査やインフラの巡視・点検等の効率化のためのドローン開発・実証
		①-4	多様なセンサから効率的にデータ収集するセンサネットワーク技術の開発・実証
		①-5	再生可能エネルギーを活用した災害時でも街路灯や地域住民へ給電する臨時電源スポット技術の開発・実証
テーマ②	デジタルツインを活用した公共構造物（道路・河川）の維持管理手法の技術開発・実証		
テーマ③	都市デジタルツインの技術開発・実証	③-1	3D都市モデル自動作成・自動更新技術の開発・実証
		③-2	高精度デジタルツイン自動生成AIの開発・実証
		③-3	都市デジタルツインに最適化されたWebGISの開発・実証
テーマ④	次世代機器等を活用した河川管理の監視・観測の高度化に資する技術開発	④-1	次世代観測機器を用いた洪水の監視体制の充実及び強化に関する技術開発
		④-2	SAR衛星を用いた観測・監視体制に関する技術開発
テーマ⑤	次世代機器等を活用した道路管理の監視・観測の高度化に資する技術開発	⑤-1	センサーやカメラ等を用いた道路構造物の監視技術
		⑤-2	SAR衛星を活用した定期的なインフラ監視技術
		⑤-3	交通状況等をリアルタイムに自動把握する技術の実証

# SBIR フェーズ3基金事業実施スケジュール（テーマ5関連）

- ◆ 補助事業の実施期間については、原則として、交付決定日から令和9年度末(令和10年3月)までが補助対象。
- ◆ 補助事業実施期間中は毎年度フォローアップ委員会を開催するとともに、実証の進捗状況・成果等について評価を行うステージゲート審査を実施。
- ◆ 追跡調査として、事業終了後5年間は、その後の社会実装の進捗状況や技術開発・実証成果の波及効果、特許等の出願・実施許諾等の状況やそのライセンス収入等について事業者より報告を受ける。





# (参考) 採択された事業者 (テーマ5)

資料配布の場所:

筑波研究学園都市記者会(資料配布)

日時: 令和6年1月9日(16:00)

※本件については国土交通省においても同種の内容を発表



令和6年1月9日  
国立研究開発法人土木研究所

別紙4

## 中小企業イノベーション創出推進事業(SBIR フェーズ3事業)に係る 補助対象事業の採択結果について ～スタートアップ等の先端技術の社会実装を推進～

「中小企業イノベーション創出推進事業」<sup>1)</sup>の「災害に屈しない国土づくり、広域的・戦略的なインフラマネジメントに向けた技術の開発・実証」分野に関し、令和5年8月31日～10月16日にて公募を行いました。以下4テーマにつきまして、**41件の応募があり、外部有識者等から構成される採択審査委員会における審議を踏まえ、以下のとおり31件の採択を決定**しました。

国立研究開発法人土木研究所は当該分野において基金設置法人の業務を支援する運営支援法人に選定されており、今後、スタートアップ等の有する先端技術の社会実装の促進と支援に取り組んでまいります。

※1) SBIR 制度(Small/Startup Business Innovation Research)において、革新的な研究開発を行うスタートアップ等が社会実装に繋げるための大規模技術実証(フェーズ3)を実施し、我が国におけるスタートアップ等の有する先端技術の社会実装の促進を図ることを目的とした事業。

### テーマ①「建設施工・災害情報収集における高度化(省力化・自動化・脱炭素化)の技術開発・実証」

応募件数: 21件  
採択件数: 15件  
採択事業概要: 別紙1

### テーマ②「デジタルツインを活用した公共構造物(道路・河川)の維持管理手法の技術開発・実証」

応募件数: 9件  
採択件数: 6件  
採択事業概要: 別紙2

### テーマ③「次世代機器等を活用した河川管理の監視・観測の高度化に資する技術開発」

応募件数: 4件  
採択件数: 3件  
採択事業概要: 別紙3

### テーマ④「次世代機器等を活用した道路管理の監視・観測の高度化に資する技術開発」

応募件数: 7件  
採択件数: 7件  
採択事業概要: 別紙4

問い合わせ先  
国立研究開発法人 土木研究所  
技術推進本部 正木  
電話 029-879-6800 (直通)  
mail:sbir-support@pwri.go.jp

### テーマ「次世代機器等を活用した道路管理の監視・観測の高度化に資する技術開発」の採択事業概要

代表スタートアップ	株式会社ランズビュー
事業計画名	中性子線を活用したコンクリート橋の塩分濃度非破壊検査装置の開発、高度化、実用化
事業期間	～令和10年3月
交付上限額	419,660千円

代表スタートアップ	株式会社アーバンエクステクノロジーズ
事業計画名	しなやかな都市インフラ管理を支えるデジタル基盤の構築
事業期間	～令和10年3月
交付上限額	327,759千円

代表スタートアップ	株式会社スマートシティ技術研究所
事業計画名	舗装・橋梁の日常管理の効率化と災害時対応の迅速化に向けた技術開発およびサーバー実装
事業期間	～令和10年3月
交付上限額	277,305千円

代表スタートアップ	株式会社 NejiLaw
事業計画名	道路インフラ向け IoT マルチセンシング式接合部計測型締結デバイスによる健全性遠隔モニタリングシステムの開発事業計画
事業期間	～令和10年2月
交付上限額	304,500千円

代表スタートアップ	衛星データサービス企画株式会社
事業計画名	SAR衛星データを活用した道路点検支援システムの構築
事業期間	～令和9年3月
交付上限額	133,232千円

代表スタートアップ	ダイナミックマッププラットフォーム株式会社
事業計画名	HDマップを活用した小型SARデータ位置情報の高精度化による道路管理の効率化
事業期間	～令和10年3月
交付上限額	353,084千円

代表スタートアップ	LocationMind 株式会社
事業計画名	AIカメラと自動車プローブデータの融合による全国リアルタイム交通流分析システム
事業期間	～令和10年3月
交付上限額	818,760千円

# 中性子線によるコンクリート橋の塩分非破壊検査装置

## 株式会社ランズビュー

大規模技術実証期間：2023～2027

### 大規模技術実証の概要

- 中性子非破壊塩分計RANS-μ（ランズ・マイクロ）の技術実証を全国の橋梁で実施し、塩害予防保全への有効性を検証する。
- 1kg/m<sup>3</sup>以下の塩分濃度計測精度、深さ方向塩分3層データ表示機能、小型軽量化による現場での実用性、塩分濃度分布や鋼材位置を可視化するシステムの等の検証。

【実証現場の様子】岩手県九戸郡野田村

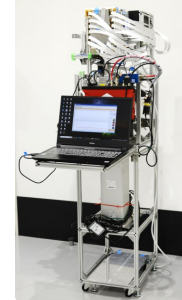


【開発技術のポイント・先進性】

- 中性子による完全非破壊、コンクリート内部の塩分濃度計測
- 屋外実橋梁で上記計測の成功は世界初。

⇒最終的に全天候型、小型軽量、塩分濃度分布及び鉄筋・鋼材位置検出を可能とする。

【成果イメージ】

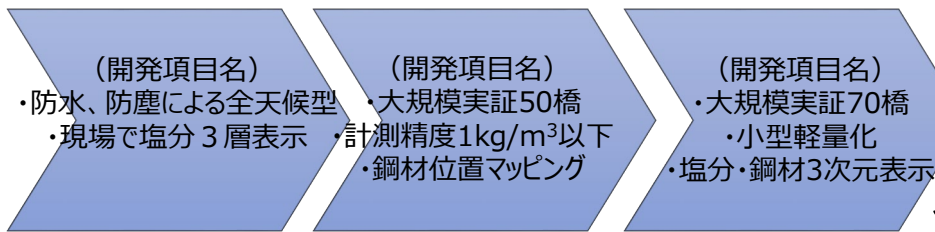


### 社会実装に向けての開発スケジュール・目標

【社会実装後の当面の目標】

- 【開発目標】
- ・計測精度1kg/m<sup>3</sup>以下
  - ・塩分3層分布その場で表示
  - ・全天候型・小型軽量
  - ・装置組立省力化・効率化

- 国内の塩害点検市場が潜在的に170億円あると試算（年間8700橋の点検を実施により塩害予防保全が可能）
- 当社では将来的にRANS-μにより年間3000橋以上の塩害非破壊検査実施を目指す。



実証完了



2024年：TRL5～ 2025年：TRL6～ 2027年：TRL7～

2028年3月末

### 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）

- 塩害による橋梁崩落事故を防止すること、長寿命化と維持管理コスト縮減を実現すること、そのためには予防保全が不可欠であり、その実現のカギは、非破壊検査、それも奥深くを測れる中性子以外にありません。
- 強い使命感と世界初の革新的技術で、インフラ維持管理の社会的課題に立ち向かいます。





**(株式会社スマートシティ技術研究所)**

大規模技術実証期間：～令和10年3月

**大規模技術実証の概要**

- 路面簡易測定の高精度化、撮影条件の頑健性向上、ハードウェアの改善検討および検証
- 道路変状の経時変化の定量化と目視不可能な構造物の損傷検知・早期把握手法開発と検証
- 災害時の舗装ならびに近接目視不可の橋梁構造物に対する遠隔かつ迅速な被害状況把握手法の開発および検証

【コア技術の概要】

路面調査技術：GLOCAL-EYEZ

※青森県をはじめとする地方道や県道と、国道事務所管轄の国道、を含む複数路線にて実証実験予定



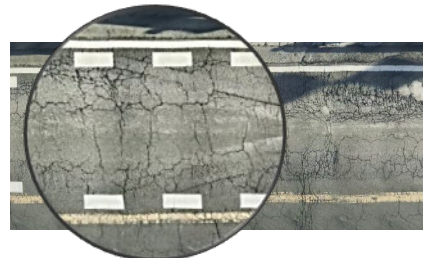
【技術の先進性】

- 従来の路面性状測定車と同精度を達成
- 高頻度の計測による予防保全の実現

- ・2023年度土木研究センター 路面性状自動測定装置 性能確認試験（舗装3要素すべて合格）
- ・インフラメンテナンス大賞 国土交通省優秀賞（技術開発部門）
- ・土木学会 インフラメンテナンス賞チャレンジ賞
- ・日本道路会議 優秀論文賞
- ・土木学会全国大会第78回年次学術講演会 優秀講演者賞
- ・NETIS登録 NETIS登録番号：KK-230048-A



経済性  
 性能



スマートフォンから高品質な路面平面図を生成



<会社概要>

■ 企業HP：https://www.smc-tech.com  
 ■ 連絡先：info@smc-tech.com

■ 本社所在地：東京都文京区向丘2丁目3-10 東大前HIRAKU GATE 402 室

**(株式会社スマートシティ技術研究所)**

大規模技術実証期間：～令和10年3月

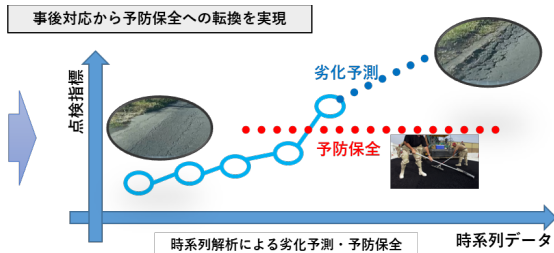
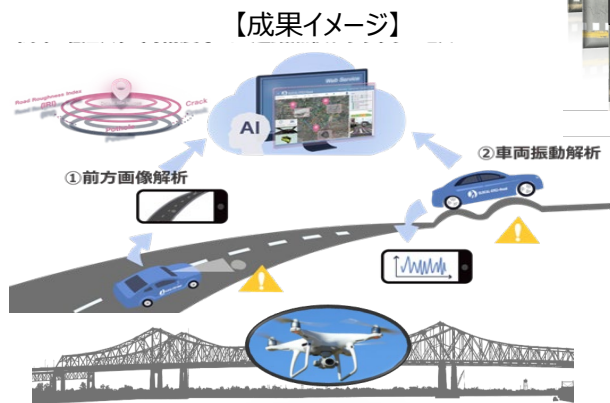
【開発技術のポイント】

■路面簡易測定の新規性向上

■舗装劣化の早期把握技術への応用

■橋梁の異常検知技術への応用

⇒最終的に道路管理者の抱える課題（道路劣化の早期把握、メンテナンスの効率化、災害時の迅速対応）の解決に資する複数機能の開発実装を目指す。



【社会実装後の当面の目標】

- 国内の道路点検市場（2023年：120億円）において、20%（25億円）の市場獲得を目指す。※数値は推計値
- 国内の道路管理者に広く普及し、舗装・橋梁の日常管理の効率化と災害時対応の迅速化に貢献する。

**社会実装に向けての開発スケジュール・目標**

- 【開発目標】
- ・測定条件最適化アルゴリズムの開発実装
  - ・路盤・床板損傷の早期把握アルゴリズムの開発
  - ・ドローン撮影AIによる橋梁損傷認識手法の開発



**開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）**

■弊社はこれまで、スマートフォンによる道路調査クラウドシステム“GLOCAL-EYEZ”の開発を通じて、国内の道路管理者さまが行う道路の日常管理、点検、修繕工事の選定に至るまで一連の維持管理業務を支援させていただいております。本プロジェクトでは、道路管理者さまがかかえる道路の日常管理、災害時対応における課題の解決に貢献したいと考えています。



代表取締役 趙 博宇氏 9

<会社概要>

■企業HP：https://www.smc-tech.com  
 ■連絡先：info@smc-tech.com

■本社所在地：東京都文京区向丘2丁目3-10 東大前HIRAKU GATE 402 室



# 株式会社 Neji Law (ネジロウ)

大規模技術実証期間：●●●●～●●●●

## 開発技術の概要

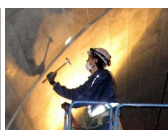
今後、長野県、福岡県にて実証予定

### 従来の点検方法

目視点検



打音点検



課題

- ・人手による作業の為、経験・勤が必要
- ・人がアクセスしにくい場所の点検もある
- ・労働力不足

### 従来使用されているセンサー類

振動

加速度

ひずみ

画像

傾斜

荷重



課題

- ・センサーの取付けが煩雑
- ・有線での取付けで配線の引き回しが不可避
- ・経時的な計測が困難
- ・施工や点検には、高度な専門家が不可欠
- ・施工誤差が大きい

1

**軸力確認しながら** 施工が可能

締結作業者とリモート管理者が、同じ情報をリアルタイムで共有できる

2

**無人化・遠隔化 点検・モニタリング** を実現

3

**特許多数** 締結用ボルトで応力センシング 可能に

- ▶ 低消費電力回路／低消費電力無線通信機能を一体装備
- ▶ 締結作業中の軸力測定
- ▶ 配線不要
- ▶ 締結部応力情報を収集

4

**世界初** 精確な応力センシング が可能に

※従来ねじでは緩んでしまう。従来ねじでは軸力センシングはできない。

5

**従来の様々なセンサをオールインワン化**

※画像取得は開発中

6

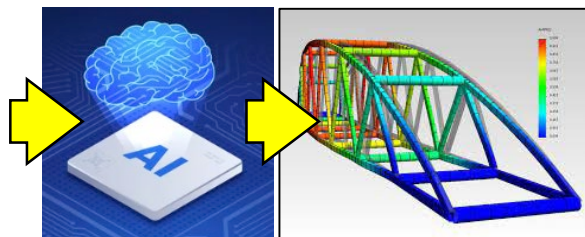
**世界特許** 教師レス自動深層学習AIシステム

によって、構造体の応力解析を可能に  
締結部のボルト軸力から、構造物全体の応力分布を見える化

7

**世界初** 金属疲労の予兆を明確に把握

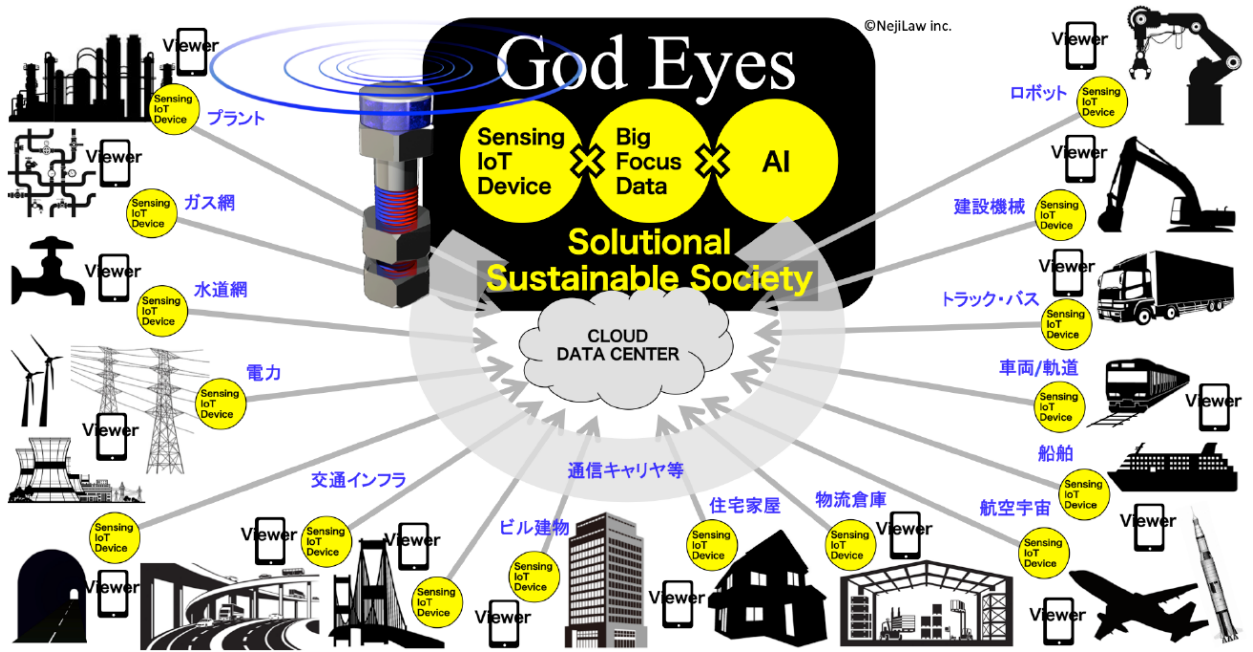
- ▶ メンテナンス箇所や時期を特定 → メンテコスト削減
- ▶ 事故の減少、予防



▲ボルト軸力から構造体の応力分布を見える化



▲手元端末で表示



▲あらゆる産業分野への展開を想定した開発

## 社会実装に向けての開発スケジュール・目標

### 【開発目標】

- ・IoTマルチセンシング式接合部計測型締結デバイスの設計／開発
- ・作業者端末 起動モジュール設計／開発
- ・自立電力供給型ストレージシステムの設計／開発
- ・逆解析システム＝応力分布生成AIの設計／開発
- ・APIの設計／開発

【社会実装後の当面の目標】



■ 国内の道路交通インフラにおいて想定される遠隔モニタリング市場（4,300億円以上/年）において、1%（47億円）の市場獲得を目指す。

## 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）



これからの日本は、最適解を追求して行く必要があります。それも瞬時に解を出して行くことが求められます。これに対して、僕がものづくりで貢献できることの1つとして、「smartNeji」をはじめとするマルチセンシング型のsmartDeviceとそれらのセンサから収集したデータを分析して可視化するGodEyesがあります。ネジや部材自体をセンサ化し、ネジ等を介して物体と物体の間に伝達される力や振動、熱等を直接捉えて無線通信ネットワークで収集するIoTシステムで、インフラや建物等の構造物や自動車等の乗り物などあらゆるところで活用できます。スマートネジを始めとするsmartDeviceを日本全体ひいては世界中に普及させれば、橋や建物などのモニタリングデータがピンポイントで取れ、ビッグデータとして地盤や風の情報といった多角的な視点も見え、これをもう1つの地球、即ちデジタルツインに反映させることで、全体的にピンポイントで健全性等を遠隔で把握することができるようになります。これにより、点検する人材の不足にも対応可能で、災害が発生しても不具合の箇所が分かるようになります。

### <会社概要>

■ 企業HP : <http://www.nejilaw.com>

■ 本社所在地 : 東京都文京区本郷3-23-14 ショウエイビル 4F

■ 連絡先 : [info@nejilaw.com](mailto:info@nejilaw.com)

(株式会社アーバンエックステクノロジーズ (代表SU)) 大規模技術実証期間：2023～2027年

## 大規模技術実証の概要

- 人口減少局面における都市インフラの持続可能性を高めるため、全国数十万台規模のドライブレコーダーなどを活用した新しいインフラ管理手法を開発する。
- 特に、本実証では、インフラ点検AI（AIモデル開発は本実証のスコープ外）を組み込み、自治体等のインフラ管理者が実際の業務で活用できるソフトウェアを開発する。

My City Reportコンソーシアム  
参画自治体にて実証予定



技術イメージ

【開発技術のポイント・先進性】

- 実際のインフラ管理業務に活用できるソフトウェア開発
- 全国数十万大規模のドラレコデータを活用



## 社会実装に向けての開発スケジュール・目標

- 【開発目標】
- ・膨大なデータを集約するデータ基盤の開発
  - ・危険度判定

【社会実装後の当面の目標】

- 全国自治体の30%で実際のインフラ維持管理に本実証の成果物を活用いただく
- さらに、海外でも展開できるよう技術実証を加速させる



## 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）

- 全国数十万大規模のドラレコデータなどを活用した革新的なインフラ点検を実現します。
- インフラ管理者の日々の業務で役にたつソフトウェアを開発します。



## ダイナミックマッププラットフォーム株式会社 (代表SU) 株式会社Synspective

大規模技術実証期間：2024年度～2027年度

### 大規模技術実証の概要

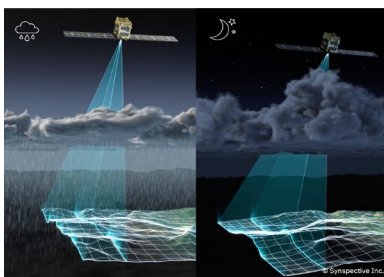
- HDマップによりSARデータの位置情報を高精度化したデータセットを用い、道路変状の抽出技術を開発、抽出情報管理のための空間情報管理システムを構築する。
- 小型SAR衛星コンステレーションを活用し、開発した技術を広域直轄国道にて実証する。

#### 【開発技術のポイント・先進性】

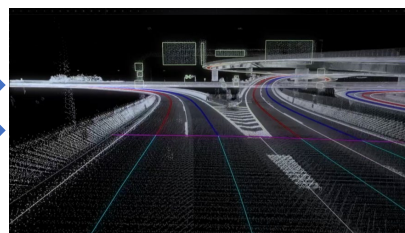
- 自動運転車両にも採用される、高精度3D地図による、SARデータの位置補正
- 空間情報管理システムによる、多種情報との連携、タスキングインターフェースの開発

広域道路の維持・管理、  
災害発生時の分析に活用

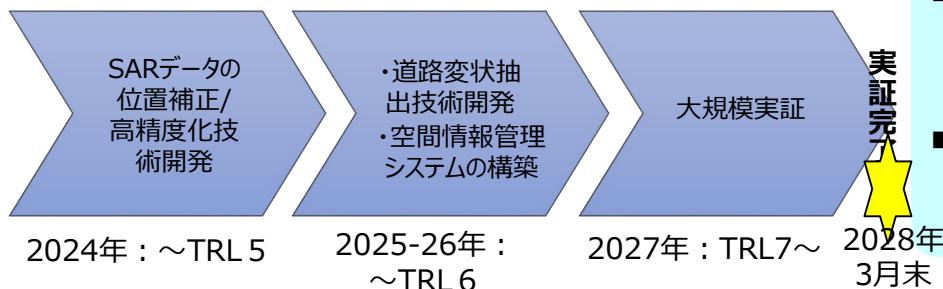
SARデータイメージ



HDマップイメージ



### 社会実装に向けての開発スケジュール・目標



#### 【社会実装後の当面の目標】

- 直轄国道管理者、高速道路管理者15団体に対し、開発技術の採用を目指す。
- 海外の道路管理者や、自動車関連企業、地図アプリ企業等への横展開を図る。

### 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）

- SARデータは、天候・日夜に影響されない広域でのリモートセンシングを可能とします。その技術は、HDマップにより位置精度が高精度化されることで、道路インフラの管理の効率化に貢献が可能と考えています。防災の観点での社会インフラの「予防保全」と災害発生時に被害状況を早急に把握する「災害復旧」の両面において、大きな効果をもたらすサービスを目指して、本プロジェクトに取り組んで参ります。

<ダイナミックマッププラットフォーム株式会社>

- 企業HP： <https://www.dynamic-maps.co.jp/index.html>
- 連絡先： [Ichimura.Mitsuhiro@dynamic-maps.co.jp](mailto:Ichimura.Mitsuhiro@dynamic-maps.co.jp)
- 本社所在地：東京都渋谷区渋谷2-12-4

<株式会社Synspective>

- 企業HP： <https://synspective.com/jp/>
- 連絡先： [toogu@synspective.com](mailto:toogu@synspective.com)
- 本社所在地：東京都江東区三好3-10-3

**衛星データサービス企画株式会社 (代表)**

**株式会社QPS研究所 (共同提案者)**  
**株式会社ハイテックス (共同提案者)**

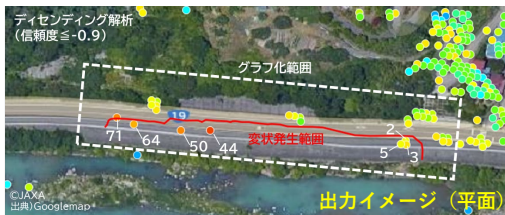
**大規模技術実証の概要**

大規模技術実証期間：2024.3～2027.6

- 定期的に有人で点検が必要な長かつ広範囲の道路土工構造物を衛星で監視し、点検対象範囲の危険度評価 (スクリーニング) 情報を提供するサービスを開発。
- 大規模災害時に様々な衛星を注文から解析までをワンストップで実施し、撮影後、最短で2.5時間以内に交通支障の発生情報を提供するサービスを開発 **(テーマ④成果を改良)**

【コア技術の概要】

時系列干渉解析で得た観測対象路線の変状実態を事前情報として提供  
 実証予定箇所：長野県、山口県を予定



【開発技術のポイント・先進性】

- 世界初の小型SAR衛星の高分解能画像での干渉解析
- 災害解析実績のある6社が共同で開発する標準化された浸水・土砂災害範囲解析

⇒最終的に道路点検の省力化、衛星による迅速な災害情報サービスを開発。

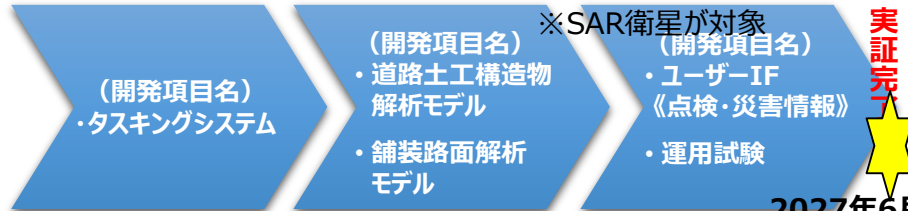
【成果イメージ】



【社会実装後の当面の目標】

**社会実装に向けての開発スケジュール・目標**

- 【開発目標】
- ・道路点検に適応した標準手法の開発 (5社)
  - ・点検情報の低価格化
  - ・災害情報を撮影後、2.5時間以内での提供を実現



2027年6月末 **実証完了**

2024年：TRL5～ 2026年：TRL6～ 2027年：TRL7～

**開発者からのメッセージ (実現を目指す将来像)**

- 老朽化が進む中、健全なインフラを維持するためには多大な費用が必要となる。衛星の広域性を生かし、維持管理にかかるコストを縮減するとともに、少子高齢化に伴う、人手不足の解消に貢献できる技術として社会実装を目指します。
- 大規模災害時の被害情報は、救助、支援計画に欠かせない情報ですが、衛星情報の活用実績は少ない。本事業では、迅速かつ、利用価値の高い情報の提供を目指します。

衛星データサービス企画株式会社

代表取締役社長  
 桑野 和孝



株式会社QPS研究所  
 代表取締役社長 CEO 大西 俊輔



株式会社ハイテックス  
 代表取締役 下坂 芳宏

<代表提案会社概要>

■ 会社名：衛星データサービス企画株式会社  
 ■ 企業HP：https://www.sd-services.co.jp/  
 ■ 連絡先：03-6380-8927 info@SD-Services.co.jp  
 ■ 所在地：東京都千代田区飯田橋4-6-1 21東和ビル5階

<共同提案会社概要>

■ 会社名：株式会社QPS研究所  
 ■ 企業HP：https://i-qps.net/  
 ■ 連絡先：092-751-3446 https://i-qps.net/contact/  
 ■ 所在地：福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴ-福岡天神ビル6F

<共同提案会社概要>

■ 会社名：株式会社ハイテックス  
 ■ 企業HP：https://hitech.co.jp/  
 ■ 連絡先：076-452-6280 info@hitech.co.jp  
 ■ 所在地：富山県富山市向新庄町6-2-7

## (LocationMind株式会社)

大規模技術実証期間：  
交付決定日～令和10年3月31日

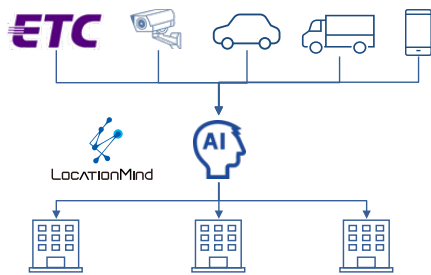
### コア技術の概要

- ETC2.0データ、AIカメラデータ、自動車プローブデータおよびモバイルGPSデータ等を組合せ、リアルタイムでの交通状況・交通量推定を実現する。
- 交通状況の短期アンサンブル予測技術を開発し、大規模災害等の交通異常事象発生時における信頼性の高い交通予測を実現する。
- 蓄積データを活用し、様々な道路利用の観点に即したサービスレベルの評価を実現する。

【各地域でデータ計測・処理・評価の実証を予定】

【開発技術のポイント・先進性】

【成果イメージ】



■ 複数データを組み合わせた  
移動状況・需要の推定技術

■ 人・車の移動・滞留に関する  
短期予測・シミュレーション技術

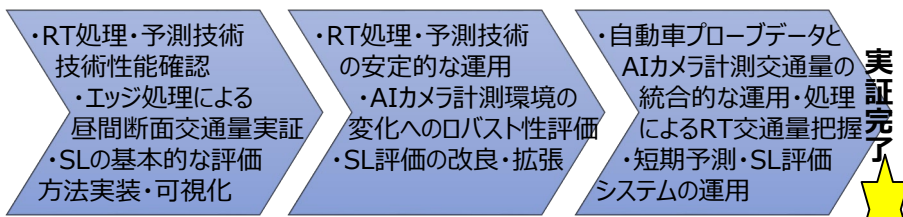
⇒ 多様なデータを活用し、道路  
交通のリアルタイム・統合的な  
分析プラットフォームを構築



### 社会実装に向けての開発スケジュール・目標

【開発目標】

- ・リアルタイム(RT)データ処理
- ・AIカメラによる交通状況計測
- ・アンサンブル短期予測
- ・サービスレベル(SL)評価手法・技術



2024年：TRL5～

2026年：TRL6～

2027年：TRL7～

2028年3月末

実証完了

【社会実装後の当面の目標】

- 国内高度道路交通管理システム市場（2033年：3,700億円）において、1%（30億円）の市場獲得を目指す。
- 本システムの社会実装により、交通異常事象発生時における円滑な道路交通管理と、サービスレベル達成型道路ネットワークの構築に貢献。

### 開発者からのメッセージ（実現を目指す将来像）

- ETC2.0データに加え、AIカメラや自動車プローブデータを活用した道路交通状況の把握が可能になっています。これらのビッグデータがそれぞれに有する特性を組み合わせ、リアルタイムでの交通状況把握、短期予測および道路のサービスレベル評価を実現するためのプラットフォームの構築を目指します。
- これにより、これからの道路管理・ネットワーク形成の課題解決・価値創造に貢献します。



取締役CTO 柴崎 亮介

<会社概要>

- 企業HP：<https://locationmind.com/>
- 連絡先：[inquiry@locationmind.com](mailto:inquiry@locationmind.com)

■ 本社所在地：東京都千代田区神田司町2-8-1 PMO神田司町4F